

船舶事故調査報告書

平成30年11月21日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成30年6月9日 07時55分ごろ
発生場所	香川県観音寺市 ^{また} 股島北岸 股嶋三等三角点から真方位349° 300m付近 (概位 北緯34° 06.7′ 東経133° 26.8′)
事故の概要	プレジャーボート ^{ゆうせい} 優勢丸は、南進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成30年6月22日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 優勢丸、0.9トン EH3-34291（漁船登録番号）、個人所有 第281-43389号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に擦過傷、プロペラ翼及び舵柱に曲損、ブラケットに割損等
気象・海象	気象：天気 霧、風 なし、視程 約20～30m 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の初期、潮高 約251cm (観音寺) 観音寺市には、6月9日04時12分に濃霧注意報が発表され、本 事故当時も継続中であった。
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人1人を乗せ、約14ノット(kn)の速力(対地速力、以下同じ。)で股島西方沖を北東進していた。</p> <p>本船は、船長が、視界が悪いのでGPSプロッターを見ながら航行し、GPSプロッター上で目的地に設定した股島北西方沖に至った頃、視界が更に悪くなり、股島が見えなかったので、目視で確認しようと思い、股島北方沖で約5knの速力に減速しながら右転し、股島に向けて南進した。</p> <p>本船は、船長が、GPSプロッターの拡大表示のスイッチを操作していたところ、股島が見えた後、股島北岸の浅所に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約0.9mであった。</p> <p>船長は、股島が見えたときには間近に接近してどうすることもできなかった所以、視界が更に悪くなった時点で停船し、船位を確認すれば良かったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、GPSプロッターの画面を拡大表示していなかった所以、本船と股島との位置関係を正確に把握していなかった。</p> <p>船長は、出航前に気象及び海象の情報を入手していなかった所以、</p>

	<p>本事故当日、濃霧注意報が発表されていることを知らず、出航する際、視程が約500mであったものの、航行に支障はないと思った。</p>
分析	<p>本船は、霧で視界制限状態となった状況下、股島北方沖で右転した後、股島に向けて南進中、船長が、GPSプロッターの画面表示を切り替えるなどして船位の確認を適切に行っていなかったことから、股島北岸に接近していることに気付かずに航行し、同島北岸の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、霧で視界制限状態となった状況下、股島北方沖で右転した後、股島に向けて南進中、船長が、GPSプロッターの画面表示を切り替えるなどして船位の確認を適切に行っていなかったため、股島北岸に接近していることに気付かずに航行し、同島北岸の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、航行中、濃霧となり、目的地の島が視認できない場合、必要に応じて停船し、GPSプロッターの画面表示を切り替えるなどして船位の確認を適切に行うこと。 ・ 出航前に気象及び海象の情報を確認し、天候の悪化等により視界不良が予想される場合は、出航を控えること。